

東京国際空港(羽田空港)の概要

総面積: 1,516ヘクタール【うち 水域94ヘクタール】(大田区の面積の約1/4、渋谷区とほぼ同じ)
 旅客数: 8,692万人(国内6,838万人/国際1,854万人)【約 24万人/日】
 取扱貨物量: 120.6万トン(国内64.5万トン/国際56.0万トン)
 年間発着枠: 48.6万回(1日当たり約1,332回)※旅客数、取扱貨物量は令和元年暦年確定値

※出典: 東京航空局HP(管内空港の利用概況集計表)、空港管理状況調査



| 主要施設 | | |
|------|--------------------------|----------------------------|
| | 滑走路長(m) × 幅(m) | 供用年度 |
| 滑走路 | A 3,000 × 60 | 1988.7.2 |
| | B 2,500 × 60 | 2000.3.23 |
| | C 3,360 × 60 ※360m延伸部 | 1997.3.27 (※2014.12.11) |
| | D 2500 × 60 | 2010.10.21 |
| エプロン | 2020.8月 現在241スポット | |

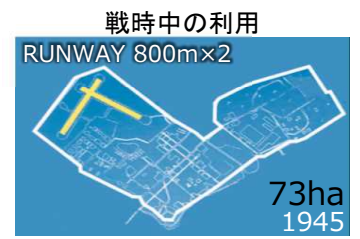
羽田空港の沿革〈空港(飛行場)の変遷〉

● 沖合展開事業

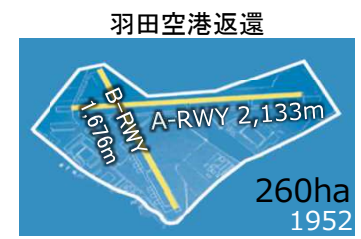
総面積: 約 53ha → 約 1,516ha
[1931年] [現在]



1931年 (S6) 海老取川
東京飛行場を羽田に設置 (立川から移転) (300m × 15m)
初の国営民間航空専用飛行場



1945年 (S20)
GHQによる飛行場接收 拡張工事着手
※48時間以内の退去命令 ↓
羽田鈴木町・羽田江戸見町
羽田穴守町の三町 (1,320世帯/2,894名)



1952年 (S27)
GHQから大部分が日本に返還 (運輸省所管)
東京国際空港に改称

70.6万人
1958年



1964年 (S39)
旧C滑走路供用開始 (3,150m × 60m)

449.8万人
1965年



1971年 (S46) 国内線転用再整備
B滑走路延長 (2,500m)
1975年 (S50) 騒音区域の指定
1978年 (S53) 成田空港開港

2,081万人
1980年

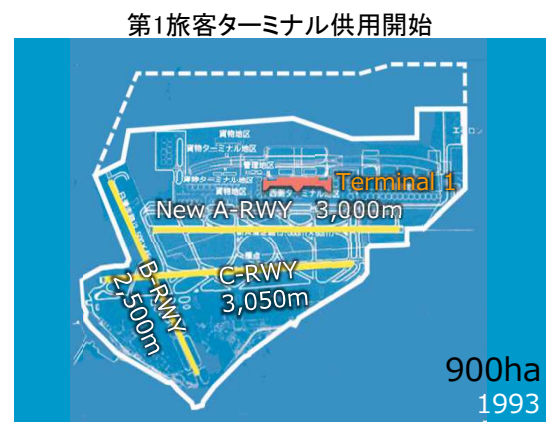


● 再拡張事業



1988年 (S63)
沖合展開事業第Ⅰ期工事完成
新A滑走路供用開始 (3,000m × 60m)

4,018.8万人
1990年



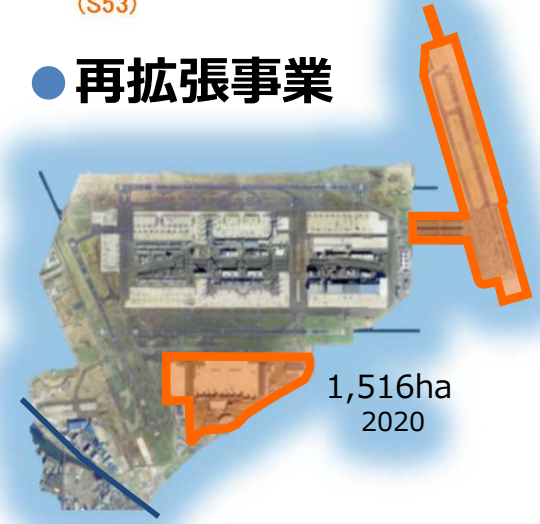
1993年 (H5) 沖合展開事業第Ⅱ期工事完成
第1旅客ターミナルビル供用開始

5,640.2万人
2000年



2007年 (H19) 沖合展開事業第Ⅲ期工事概成
再拡張事業(D滑走路)着手

2010年 (H22) 1月12日 新管制塔供用開始、成田とのターミナルレーダー業務統合
10月21日 D滑走路供用開始、新国際線旅客ターミナルビル供用開始
10月31日 再国際化(国際定期便就航再開)
2014年 (H26) 3月20日 国際線旅客ターミナルビル増設部供用開始
2020年 (R2) 3月29日 第2旅客ターミナルビル国際線施設供用開始
新飛行経路供用開始



1,516ha
2020

8,692万人
2019年